

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 29 日

所 属 獣医学部 基礎教育系

氏 名：石井康夫 職位：教授

役 職：教育推進センター長 / 基礎教育系主任

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。（分量の目安：2～5 行（80 字～200 字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

英語教育について：基本的に各学科の DP/CP に適合することを強く意識する。基礎科学英語では、両学科に関連する基本的な語彙、動物の身体の仕組みや機能を英語で考える。英作文表現においては、短文による動物・医療・健康・環境・生態等に関する表現を実践できるようにすることを目標とする。講読関連においては、学科に関連する専門的な文献を「読める」力を養うことを目標とし、いわゆる一般的な英語学習ではない、学科教育に密接にかかわり、また技能的に「～できる」ことを到達目標とすることを意識して授業に臨む。教員としての責任はこの科目の目標への実践にあると考える。世界文化史においては、幅広い歴史と文化の知識を履修者に提供し、教養として知識の蓄積を行えるよう授業に臨んでいる。教養は専門外であっても人間育成においては極めて重要な内容を含むものであり、教員としてその内容の厳選には責任をもって取り組んでいる。

獣医学科の特論・ゼミについては、オンデマンドでのゼミを実施している。ほとんど学ぶことのないであろう動物と人間の関係、歴史的背景、また最近の倫理学的見解などを交えてゼミ後のフィードバック対応を大切にしている。これは社会に出てからの人間としての道徳観の涵養に結びつくものと考えている。

科目名	学科・専攻	必，選， 自	配当年次	受講者数
基礎科学英語	獣医学科	必	1	49
基礎科学英語	動物応用科学科	必	1	41
世界文化史	動物応用科学科	選択	1	91
英語講読Ⅱ	動物応用科学科	必修選択	2	75
英作文表現	獣医学科	必修選択	1	79
英作文表現Ⅰ	動物応用科学科	必修選択	1	80
英作文表現Ⅱ	動物応用科学科	必修選択	2	34
卒業論文	獣医学科	必須	6	11
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	9
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	6
専門ゼミ 科学の伝達	動物応用科学科	必修	4	1

英語特別演習	動物応用科学専攻	選択	MA1	20
動物倫理学特論 I	動物応用科学専攻	選択	MA1	1
動物文化史特論 I	動物応用科学専攻	選択	MA1	2

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。（自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの）（分量の目安：8～12行（320字～480字））

英語教育において、重要なことは学んだ内容を確実に「身につけることができる」ような程度余裕をもって学習させることが重要であると考えます。基礎科学・講読・表現の領域において、特に履修者が苦手とするものは何かを考え、履修の際に困難を伴わないよう、学習させる必要がある。そのためにも資料作りが最も重要なものの1つであると常に考えている。授業現場でどのような教材を目にするのか、提供されたものが学生にとってはすべてでもある。そこでのモチベーション、修得しようという意識が瞬時に高まるようにしなければならない。これは予習復習の段階で影響がでることだ。その意味において資料がまず第一に重要である、とすることが一つの理念。

履修者は「理解できた」「使えるようになった」「実際に試験や課題にも取り組むことができた」という達成感が重要である。履修者にとって理解できない、のみこめない、取り組めない、ということほど苦痛なことではない。円滑な理解を導くことができるのは、教員の授業運営にかかっている。履修者の「わかった」「できる」という達成感や満足感を授業の楽しみに高揚させることが教員の務めであり、もう一つの理念となる。

学校教育は人間育成の場所である。教員と教育内容は、究極的には「人を成長させる」機会と方法でしかない。人間を人間として少しでも成長させることができれば、それが真の教育である。人を育て、人間として成長させることが科目・授業を通じた最も重要な教育理念である、これが最大の目的を伴う理念であることを常に考えなければならない。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

- ・重要視していること：履修者の顔・表情を見ること。わからない、早すぎる、ついていけない、おもしろくない、という気持ちは学生の表情にでる。これを見過ごさないようにすることが大事。うなずいているから満足でしているわけでもない。授業時の履修者の姿勢について授業進行時に確認をすることは重要視することだ。
- ・次に重要視することは、言葉での説明。評価のこと、内容、すべてが説明に拠る。履修者は聞いていない者、関心をよせない者が多くいる。履修者に理解させるには、何よりも資料自体の書かれた言葉と、授業時の教員の肉声である。説明をいかに丁寧に、わかりやすく「伝える」か、ということに重要視している。
- ・教育の目標と目的は、前掲のとおり、各科目への到達教育目標に含まれている。英語については、「身につける」「記憶に残る」「理解する」ことが最も重要である。語学においては実践性が必要であり、修得の目的でもあるのだから「表現が使える」「読解で内容を理解する」「自分の見解を英語で述べる」ことが目標となる。
- ・特徴：教育の特徴として、これは自身の年齢・加齢により変化してきたことだが、の

んびりと余裕をもった教育・講義をすること。履修者にある程度「楽しんで」もらうこと。これを重要視している。笑いの要素を資料に含める。これらは授業と内容に円滑に入り込んでいくためのひとつの方法論である。

- ・新たに学習した内容については、先述のとおり「残ること」を重要視している。特に人間形成を踏まえた倫理観・道徳観を涵養するためにも、学んだ内容が卒業後に活かせるよう、「自分の見解」をしっかりと認識してもらうような授業づくりをこころがけている。

アクティブラーニングについての取組

英作文表現Ⅱにおいては、「グループワーク」と称して、いくつかの組に分けて作文表現と読解を実施している。他者の読み方・解釈の仕方、表現の仕方を比較対照させる試み。世界文化史では、質問事項に挙手をさせ、対話的な方法で発言をうながしたりする。またミニッツペーパーを即時にフィードバックし、履修者の複数の意見を授業内で反映させたりする。これらの手法は常時行うものではないが、授業を緩慢なものにさせない、自分だけの考えに偏らせないための方法でもある。大学院研究科の科目(動物倫理学 動物文化史)においては、履修者・授業参加者との対話をかなり重視する。スライド進行とともに、ほぼ 3-5 分おきに質問を投げかけ、返答をしてもらう、また他者の見解について自分としてはどのように考えるかなど、常に「思考」し、課題に取り組むようなスタイルをとっている。スライド内容よりも授業を通じた自分の価値観・ものの考え方などを繰り返し練ってもらうような授業づくりを行っている。

ICT の教育への活用

オンライン授業の導入はこの 2019, 2020, 2022 年度で行ってきた。ただし、感染対策の一環として導入したものであり、ICT 教育の範疇にはない。担当科目と内容・目標においては、対面実施による授業形態は有効であり、決して旧態の方法であるとは考えていない。

履修者と実際に顔を合わせ、発言・発話をすることは語学教育の基本中の基本と考えている。英語教育にしてもその他の担当科目にしても、履修者への直接の問いかけ、指導、作業を教育内容に盛り込んでいる。またオンライン授業を実施しても、課題や問題点などについては履修者の意見・見解をすぐに聞くことが必要である。

ICT を駆使する授業方法もあるが、それは自分の教育領域ではないと考えている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C）

A 毎年資料については変更・修正を施す。講読においては毎年資料の入れ替えや新しいものを導入するようにしている。スライド資料については、これも毎年修正し、見やすいもの、理解・読みやすいものに入れ替えるようにしている。オンデマンドゼミの実施を獣医学科研究生には実施している。各人からの見解を徴収し、またフィードバックを行って考察を深めるようにしている。

②学生の理解度の把握（A～C）

A 学生は前述の目標・理念実現のための工夫のところで記述していることの一つ・身

につける、～できるようにする、という部分で理解されていることが判明している。課題の答えについては AzaMoodle / 學理を通じてつねに配信し、チェックできるようにしている。履修者はそれを閲覧することにより、自分の理解度を確かめることができる。これらのことは、授業終了時の独自アンケートを実施することで教員側も確認できるようにしている。

③学生の自学自習を促すための工夫 (A~C)

B 自律的な学びということは、授業開始時、あるいは授業期間中にその重要性を強調しているおとでもあるが、予習復習含め、授業前後の自律的な学びにいたっていない者が散見される。これはこちらの工夫がまだ充分でないことが反映されている。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (A~C)

A 質問・意見など、各授業科目については、随時受け入れている。授業終了後には関心のある学生はよく話をしたり質問をしたりする。それには丁寧に接し、満足のいくように説明・理解してもらっている。

⑤双方向授業への工夫 (A~C)

A 必要に応じて双方向的な手法を導入している。無理に入れると授業内容が薄くなり、また説明などの、むしろ妨げにもなるので、授業進行と履修者の姿勢を鑑みながら導入するようにしている。

※A (十分実施している) B (実施しているが十分でない) C (うまく取り組めていない)

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。(V 学科, M 学科の教員の方のみ記載してください。)

該当しない項目。

5. 学生授業評価 (分量の目安: 4~7 行 (160 字~280 字))

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

授業評価項目は、予習復習への取り組みが一番低い。これについては、どのように反映させるかは、現在では不明でもある。課題は課題として取り組んでいるので、それなりの効果(復習確認として)はあると考える。それ以外の項目については、問題視をする必要を感じていないので、改善も含め実施する。

② ①の結果はどうでしたか。

授業進行が「速い」という指摘については、その科目についてなるべく進度を考慮して、繰り返し説明するなどの工夫はこころがけている。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

学生の評価を踏まえる、ということ以上に、自分自身の中で改善すべきことを認識することが重要であると考えている。常なる改善は自らの意志で行う取組ものであり、取組は常に必要だ。必ずしも「評価」を基準とするものではないと考えている。

6. 学生の学修成果 (分量の目安: 4~7 行 (160 字~280 字))

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

(参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。)

成績を向上させる、という目標は設定していない。理解してもらう、みにつける、～できる、ということが重要なので、そのための学修効果の取り組みとしては、常なる資料改善と、授業時の気配り、説明の向上であると考えている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

学生の成果は成績に反映している。概ね授業目的・到達目標には達していると考えられる。問題は、どの程度を到達目標とするかである。目標を高めてしまうと、履修者の成果は今より低くなるだろう。これは入学者の傾向にもよるし、初年次での授業・教育の取り組みにかかっている。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況) (分量の目安: 1~2 行 (40 字~80 字))

TP 作成や、授業評価の在り方、シラバス作成の工夫など、過去に実施されてきた FD 研修にはほとんど参加している。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。(分量の目安: 3~6 行 (120 字~240 字))

2024 年に開始される予定の獣医保健看護学科について、2 科目を担当する。基礎科学英語と獣医看護実践英語、特に後者の科目は初めての授業科目であるのでこれに注力することが直前の短期的目標である。

長期目標としては、現行カリキュラムで担当している科目の資料改善を継続して行うこと、またある程度整理してまとめられるものがあれば教材としてまとめたい。

9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

- ・シラバス
- ・全科目授業資料
- ・授業終了時アンケート
- ・授業評価
- ・課題
- ・グループワーク資料
- ・課題の模範例
- ・授業時リアルタイムでの資料 (LMS には掲載しない)